

国際部会

国際親子ハイクを楽しむ

国8 - 国 佐伯 義昭

グループ わ 国際部会が(財)長寿社会開発センターの助成を得て、昨年11月18日(土)外国人と日本人親子のハイキングを通じて交流会を開催

を合わせて手を組むヒッツキ虫ゲームや、国際部会の会員から提供された品々をジャンケンで勝った者から取っていく勝ち抜きゲーム。最後はチーム全員が一枚の新聞紙の上に立ち、クイズに解答できなければ新聞紙を半分に折って、はみ出ると負けになるゲームで、互いに抱合い、肩車で人間2

階建てなどスキンシップを通じた国際・親子交流に楽しいひと時を過ごしました。

午後2時には修法ヶ原を出発、神戸で最も美しい紅葉道といわれるコースを経て市ヶ原と改修の終わった布引貯水池まで下山した。何とも美しい景色に外国人は感嘆していた。

参加者を代表してマリスト国際学校 Rudy Maharaj 校長から「学校の子供達が今日なぜキャンセルしたかわからないが、私たちは大変楽しい一日を過ごさせてもらったことに感謝上げたい」との謝辞を頂いた。皆さんとの別れを惜むように小雨がポツポツ…。日本人の少女がアメリカの Andrea Tews さんとすっかりうちとけて仲良くなり、このまま別れるのが寂しいと涙を浮かべていたのは印象的でした。



外国人親子を交え、みんな揃って記念撮影

しました。

この日、地下鉄県庁前駅 9:30 集合、ハイキングのメッカと言われている修法ヶ原・市ヶ原方面へ出発した。最初、参加申込者 35 人のハイキングを予定していたが、当日キャンセルが多く 12 名となった。マリスト国際学校から3名の先生、中央区在住の留学生、西区在住の教育システム研究者の外国人計 5 名に対し、日本人親子は 7 名、それに わ 本部・国際部会 18 名の交流ハイキングとなりました。

当日は薄曇りで雨の心配もなく、時折陽が射すハイキング日和で、主催者としては先ずひと安心。諏訪山公園で準備体操の後、最初の関門である諏訪山神社の急坂、幼児には少しきつかったようでした。

途中、林間コースから眺められる神戸の海、浮かぶ船、高層ビル等の景観に外国人親子などはワンドフルと楽しんでた。大師道、狸ヶ池、大龍寺を経て、正午過ぎ修法ヶ原に到着した。

「楽しいランチタイムです」の声に、先発隊の食事班による心のこもった食べ物が提供された。ピュッフエスタイルでオープンサンド、コンスープ、ゆで卵、おにぎり、りんご、バナナ、みかんなど大変なご馳走だった。

食後はゲームを楽しむ。二人が背中

季節の草花

コオニタビラコ

生8 - 文 久保 知彦

セリ、ナズナ、ゴギョウ(ハハコグサ)ハコベラ(ハコベ)、ホトケノザ、スズナ(カブ)スズシロ(ダイコン)を春の七草とするのが一般的だが、これには異説がありハコベラを入れずに、タビラコ、ホトケノザとするものもある。すると、このホトケノザは何だろうかとの疑問がでくる。

このホトケノザだが、シソ科で春に赤紫の花をつけるものがあり、これは食用にはならない。春の七草にでくるホトケノザは、キク科のコオニタビラコのロゼット葉を指している。牧野富太郎氏がこのコオニタビラコをホトケノザに当てたことから一般的になったらしい。

コオニタビラコは春耕前の水田やあぜ道に生える越年草で、タンポポに似るものの花の咲いたあとに白いわた毛ができない。地面に張り付いたような葉の上に花がついている様子からホトケノザという名前がついたのだろう。タビラコとは「田開く」が訛ったものとか「田平子」だとか、さまざまだ。

